

分野名	全てのいのちが共生する社会の構築			施策 No.	IV-1	施策名	生物多様性の社会への浸透	
目的及び内容	生物多様性の理解促進(ホームページ等情報発信の強化、参加型プログラムの充実) 生物多様性の現状評価(野生生物の分布・生息成育状況等調査、府民と連携したモニタリング体制の構築)							
分野内における位置付け	分野の2020年目標である「生物多様性の府民認知度を70%以上」の達成を図る。							
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9)、種の保存法、外来生物法 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画(H21年12月、H37年まで) 大阪府豊かな海づくりプラン(H17年5月、H26年度まで)							
施策に属する事業及び取組実績	毎年度点検評価対象事業名	取組実績(H23)	取組実績(H24)	取組実績(H25)				
	レッドデータブック改訂・活用推進事業		府内野生生物生息・生育状況基礎調査実施 ☆☆☆	レッドリストの改定				
	天然記念物イタセンパラを利用した普及啓発事業	観察会・出前授業・展示(1200名以上参加) ☆☆☆ 支援市民ネットワーク設立(19団体)	観察会等(2300名以上参加) 市民ネットワーク支援取組(のべ1600名参加) ☆☆☆	観察会、出前講座				
	大阪生物多様性保全ネットワークの取組推進	—	H24.3月ネットワーク設立(評価対象外) 生物多様性協働フォーラム開催	普及啓発イベントの開催(自然観察会等)				
	おおさか生物多様性パートナー協定制度の創設			専門家による技術的支援により、民間事業者の積極的な取組みを支援				
	単年度サイクルの点検評価結果：☆☆☆想定以上/☆☆☆想定どおり/☆☆想定以下(特に改善を要しない)/☆想定以下かつ改善							
	その他の主な事業名	実施年度	主な内容・実績					
	アドプトフォレスト事業	H23-25	アドプトフォレスト制度による企業連携により自然学習の場を創出(H25.11月現在35件)					
	自然環境保全普及啓発事業	H23-25	府域の多様な自然環境を普及啓発する自然歩道ガイドマップの作成(H24)					
	農業用水路改修事業	H23-25	水路改修による安全確保と府民協働による水辺環境づくり(H24年度5地区で実施)					
漁民の森づくり活動推進事業	H23-25	府民等関係者が連携した河川上流域の森林への植樹・育林活動(〇〇年度時点〇ヶ所)						
施策に要したコスト	事業のコスト(千円)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(見込み額)				
	本施策が主たる目的である環境関係事業	(26年度に記載)						
	本施策が従たる目的である環境関係事業							
	環境以外の目的を有する事業							
取組指標及び近年の実績(施策効果の定量評価)	取組指標	設定理由	近年の実績					
	① 生物多様性に関する府民の認知度	生物多様性への府民の理解が進み、生物多様性に配慮した行動が取られる長期の将来像の到達状況を把握する。府インターネットモニターアンケートを利用(府民全体からの抽出ではないため、参考値として扱う)。	17%(H20)、31%(H23)、33%(H24) 〇〇%(H25)と、穏やかに上昇傾向にある。					
副次的効果、外部効果等	①社会教育効果、地域への愛着を高め地域社会の強化に資する。 ②生態系サービス(生態系から得られる恵み;大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土)の維持に資する。							
国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋市にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標(2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす)、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」H24年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。							
点検・評価結果	①当施策は概ね順調に進捗している。 ②計画本文及び工程表に掲げた事業の進捗は以下のとおり。							
	事業名	進捗						
	生物多様性についての情報発信の強化	☆☆ ポータルサイト「おおさかの生物多様性ひろば」の設置						
	レッドデータブックRDBの改訂検討	☆☆ H25年度末にレッドリストを改定予定						
	外来種対策の推進(ブラックバス、ブルーギル、アライグマ等)	(26年度に記載)						
	モニタリングの体制整備(仕組みづくり・実施)既存施設・団体等と情報共有化	☆☆ 行政、研究機関、大学、NPO等で構成する「大阪生物多様性保全ネットワーク」による取組の推進						
	地域のシンボリックな生物によるPR(HP情報発信)	☆☆ 天然記念物イタセンパラについて周知啓発実施						
	自然公園施設(府民の森、長距離歩道等)の情報発信	☆☆ 「府民の森」のポータルサイトを開設し、各園地のイベント情報等をリアルタイムで提供、長距離歩道を利用したハイキングイベントの開催						
	身近な生き物調査	☆☆ 小学校と連携し、チョウの自然観察会を開催(8校で実施)						
	企業・NPO・地域と協力した参加型プログラムの充実(共生の森、泉佐野丘陵緑地、里山・棚田保全、アドプトフォレスト、アドプトバード、おみそ構想推進等)	☆☆ 共生の森づくり活動 植栽面積120,000㎡ 延べ参加人数1万3千人 参加団体220団体(H24末) アドプトフォレスト 35件(H25.11現在)						
環境教育の推進(出前授業、学校ビオトープ設置推進)	☆☆ 水生生物体験、環境情報プラザにおいて実施 小学生を対象に、チョウを指標とした出前授業の実施 大阪みどりのトラスト協会を通じた、学校ビオトープの整備支援							
進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画どおりではない								
施策・事業の改善方針等	(26年度に記載)							
今後の取組指標及び施策目標	(今後掲げるべき取組指標)「取組指標及び近年の実績」に掲げた①の指標とする。 (今後掲げるべき目標)分野目標と同じ							
作成担当課・G	みどり推進課 自然環境グループ							

本作成例は、以下の前提で仮に作成したものです。本シートの記載内容は平成26年度の複数年サイクル点検評価実施時に確定します。
 ・記載している社会情勢等は現時点のもの。
 ・平成25年度の各事業の実績は、ほぼ年度当初の見込みどおりの実績と仮定。